

中国青海省における放畜犬に対するテニア科条虫駆虫プログラム実施効果の検証

学位名	博士(獣医学)
学位授与機関	宮崎大学
学位授与番号	17601甲第3号
URL	http://hdl.handle.net/10458/5043

学位論文審査結果の要旨

博士課程 ①・乙	第 3 号	氏 名	郭 志宏
審 査 委 員		主 査 氏 名	後 藤 義 孝
		副 査 氏 名	丸 山 浩 行
		副 査 氏 名	三 澤 尚 明
[論文題名]			
<p>Epidemiological Study and Control Trial of Taeniid Cestode Infection in Farm Dogs in Qinghai Province, China 中国青海省における牧畜犬に対するテニア科条虫駆虫プログラム 実施効果の検証 The Journal of Veterinary Medical Science, 2014 (in press)</p>			
[要 旨]			
<p>人獣共通寄生虫であるテニア科エキノコックス属条虫と家畜に被害をもたらすテニア科テニア属条虫が高度に流行している中国・青海省において、それらの終宿主となる牧畜犬を対象に、その流行調査と定期的駆虫対策の有効性評価を実施した研究である。</p> <p>まず、駆虫一日後の糞便を検査することによって終宿主糞便中の虫卵の検出率が向上することを見出し、この検査法と虫卵DNAによる種同定法を利用して青海省3地域で上述のテニア科条虫が高度に流行していることを確認した。そこで、最も流行度の高かった Xinghai 県において、90頭の牧畜犬を対象に、プラジカンテルの定期的投与による駆虫プログラムを実施した。その結果、虫卵陽性率は駆虫前の34.4%から2年後には4.9%までに減少したが、完全駆虫には至らなかった。遊牧民に対するアンケート調査により、対策プログラムの有効性を向上させるためには、対象者に対する十分な教育と予防意識の向上が不可欠であることが示唆された。</p> <p>以上の結果は、青海省におけるテニア科条虫症のコントロール方法樹立に向けた重要な知見であり、今後の青海省の医療・獣医療に資するものと思われ、学位論文に値する成果と判断した。</p>			